「凍　土」

東京田無市　細　谷　弘　治

軍歌うたい石炭(たん)積みながら飢えを耐えきすでにはかなき
帰国恃みて
ヤゴダの実くちびる染めて食いし頃囚はれしものの幾人
は死にき
幾百の戦友(とも)を凍土に葬(はふ)りしよりかの国を信ずることすで
になかりき
幾日も物食えぬまま死にし戦友(とも)の雑のうよりあはれ大豆
出るも
死者埋めし一本松のあたり指し我を呼ぶよと云ひて死に
し関口武
「若い士官候補生(もろどいゆんける)」と呼ばれシベリヤに果し戦友(とも)の大方
は十七・八才にして
人型(ひとかた)に火焚きて凍土を堀りしのみその浅き穴に戦友(とも)を葬(はふ)
りき
農場(こるほーす)に凍てしキャベツの葉を食いて生きつぎし日ははる
けくなりぬ
共に飢え凍土に病みし我らにて生きながらふるを倖と思
はず
シベリヤに死にたるゆえに遺品なき君の母上は学生帽を
埋めき（慰霊碑建立の日）